



## 2008年定期総会報告

岩上 誠次

第一部の総会は、佐藤東洋士議長のあいさつに続き、議事として①前年の活動・会計報告、②今年の活動・予算案、③役員改選案が提議され、それぞれ承認されました。

### 佐藤東洋士議長のあいさつ(要旨)

10年前、前任の大野先生から代わりに行けということで、当市民会議の議長をお引き受けしたことを思い出しています。(中略)最近のことをお話しますと、東京都の所有地である里山があります。その森を保全していくために、都では、「東京グリーンシップ・アクション」という取り組みをしまして、地域ボランティアと企業を組み合わせた保全活動を進めています。さらに大学を組ませようとも都は考えています。町田市内にある



「七国山緑地」も、市民団体(七国山自然を守る会)と企業が取り組んでいます。これに桜美林大学も取り組まないかと言ってきています。当会も市民団体として、このような取り組みに協力していただけたらありがたいなと思っています。



オオタカの生態に必要な野ねずみやモグラも、林の整備をしていかないと「オオタカが餌をとるために」飛び込めないことがあるのですね。

期待としては、他の大学も含めて学生が環境保護、里山保護に取り組んでくれたらと考えています。

### 第56号目次

2008年定期総会報告	岩上 誠次	1
「創造的で楽しい市民協働の町田を考える」を終えて	井上 弘貴	2
(株)三和・市民・市役所が初の「レジ袋ゼロ」を協働実験	渋谷 謙三	5
事務局だより・編集後記		8

## 2008 年定期総会報告(続き)

### ○主な 2008 年活動計画

#### 1. 各専門部会の活動

(1) 町田市行政課題に呼応する市民協働のあり方に継続取組みます。

時代の推移により行政政策にも大きな変化が見られることから、行政動向を見極めつつ、市民参加協働部会、廃棄物対策部会、自然環境部会、公共交通部会などの活動を進めます。

(2) 地元大学（桜美林大学など）との協働研究活動を継続します。

桜美林大学協働部会など

イ、桜美林大学春季オープンカレッジに協力する。

ロ、桜美林大学秋季エンジョイウォーキングに協力する。

#### 2. 行政計画への参加・参画

まちづくりに関して、市が新たに計画づくり、条例制定等を構想した場合には、主要市民団体として、委員構成に積極的に参加します。

○役員改選（任期2年、\*印は新任、無印は留任）は、以下の方々に決まりました（敬称略）。

（議 長）佐藤東洋士

（副議長）柿原ユキ子、岩上誠次

（総 務）渋谷謙三、大久保和彦、桜井朋広、豊吉重充、中井薫、山口平太郎、  
井上弘貴\*、柿原ユキ子（会計担当：兼任）

（幹 事）青木幸雄、大橋成夫、小林美知、友井徹、樋渡敏彦、松前昭廣、湯浅起夫、

（監 査）佐藤勲\*

### 町田まちづくり市民会議設立 10 周年・町田市制施行 50 周年記念討論会

## 「創造的で楽しい市民協働の町田を考える」を終えて

第1部の総会を終え、休憩をはさんで14時から第2部の記念討論会「創造的で楽しい市民協働の町田を考える」がおこなわれました。町田のまちづくりを考えるうえでどれも欠かせない自然保護、文化芸術、廃棄物、交通それぞれのトピックについて、各分野に詳しい会員のみなさんに問題提起を手短にさせていただき、それをうけるかたちで森戸哲先生(NPO 法人地域総合研究所)から、これからの市民協働のテーマになりそうな具体的なプロジェクトの実践的アイデアを提案いただきました。



岩上誠次さん(奈良ばい谷戸に親しむ会)からは、町田の自然保護について、とくに北部丘陵を中心にお話いただきました。岩上さんたちがこれまで提言してきたことは、かつての「考えながら歩くまちづくり」の提言に書かれていたことと同じであり、30年のあいだ市は何をしてきたのかという怒りとともに、2009年の実施がうたわれている石阪市政下での北部丘陵整備について、その実現の見通しを心配しての厳しい注文がつけられました。

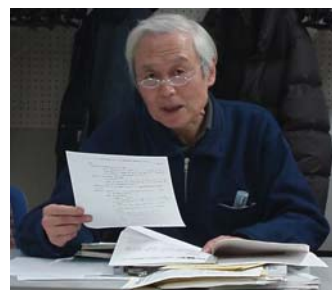
大橋成夫さん(町田市立国際版画美術館友の会 理事)からは町田市の文化芸術について、市の中期経営計画での「商業・文化芸術都市」の創造に沿った解説と提言がありました。日本各地の事例を紹介しながら、大橋さんは30年先あるいは50年先をみすえた文化芸術政策が町田にも必要であることを指摘し、市民の誇れる、そしてサービス業であることを意識した美術館・博物館の必要を提言しました。



小林美知さん(小山田ごみ問題を考える会)は廃棄物をテーマに、まさにちょうどスーパー三和・小山田店でスタートした直後だった「レジ袋廃止実験」の舞台裏を中心に語っていただきました。そのなかで、「市民運動の側からも、いま目の前にあることにちょっとまったと言いつつ、行政と一緒に考えていこうという提案ができる時代に入ったのかなあ」という、市民協働がすこし見えきたお話をしていただきました。



交通については佐藤勲さん(町田市交通マスタープラン推進委員会委員)から、「町田市交通マスタープラン推進委員会の審議状況と方向性」と題して、委員会のこれまでの審議の流れとともに、そのなかで打ち出されてきた今後の公共交通の方向性について全体的な説明をしていただきました。



総合司会の渋谷謙三氏からは、この4つのトピックはいずれも行政だけでは無理で、市民の力が中心に加わらなければならない、市民協働の重要性の補足的な指摘がなされました。

以上の問題提起をいただいたあと、いよいよ森戸先生からは具体的な市民協働の提案をいただきました。森戸先生はホワイトボードを使いながら、つぎのような三つのプロジェクトを提案されました。以下は、提案の要旨です。

- ・ まちだ花街道プロジェクト
- ・ まちだフラワーパークプロジェクト
- ・ 農あるまちだプロジェクト

#### まちだ花街道プロジェクト

花とみどりの会がやってきたのは、花いっぱいコミュニティを作っていこうという試みだったのにたいして、花街道は他人に見てもらいたいという「下心の強い」プロジェクト。具体例で言うと、市民ホールの隣にできる予定の新しい庁舎と駅までの500メートルを花街道にする。木の根元に花を植えるくらいのことは市民でもできる。あの通りはご存知のように殺風景なので、フラワーバスケットをぶらさげるだけでも迫力が出る。公共の空間に市民が手を出すということ、空間的協働です。新しい市庁舎がたいしたことなくても、街道だけでも頑張ろうという下心もある。相原のあたりや版画美術館までの通りを花

街道にしても良い。金沢美術館は歩いているうちに美術館の庭に出る。ただ花街道は、わざわざこれを見に来てもらう引力はないので、つぎのプロジェクトを考えたい。

### まちだフラワーパークプロジェクト

『ごみゼロの風』の第4号の最終面にフラワーパークが出ています。オランダを代表するフラワーパークに、キューケンホフ(Keukenhof)という世界的に知られている公園があります。日本では、民間がやっている「花の芸術村 あしかがフラワーパーク」というのがあ  
る。キューケンホフはチューリップの時期だけだが、ここは1年を8つの花の季節にわけて、かなり人が来ている。儲かっているなという印象をもったが、儲かるというのは大事なこと。たとえばこういうのを北部丘陵で考えてみたらどうか。それと、ここに来るときに、まちださくらまつりのパンフレットをもらったが、町田にはダリア園であるとかえびね園とかいろいろあるので、こういうものをつないでいければ「フラワーネットワーク」みたいになる。こういうプロジェクトを市民が描いて行政と一緒にやっていたら、創造的で楽しい市民協働になるかなと思います。



### 農あるまちだプロジェクト

来月から川崎市では、JA と市が大規模な農産物の直販所を作ります。お客さんは町田のひとをあてにしているんじゃないかと思うんですね。思い出しましたが、渋谷区は55億円もの予算をかけて市民農園をつくるそうです。それならば、町田でやるほうが健全だろうと思います。

4人のみなさんの説明と提言をうけて、あるいは、森戸先生の一連のプロジェクトの提案をうけて、フロアからも活発な意見が飛び交いました。北部丘陵における不法投棄の問題、北部丘陵の整備にかかるかもしれない予算規模の問題。あるいは市民ホールや映画館についての提言や市の職員からもすでに提案が出されている屋根のない博物館、エコミュージアムの可能性など、多方面にわたって意見が出されました。

また、桜美林大学との協働にかんする議論の展開のなかで、森戸先生はヴィジターズ・インダストリー(Visitors Industry)としての大学という考え方にも触れつつ、市外から来るひとに「外貨」としてお金を落とすとしていってもらう工夫、昼間人口を高める工夫をすべきであることも提案されました。

総合司会の渋谷氏からは、「みんなが希望に輝くまちをつくる」というところからまちをつくっていく、そういう時代の変わり目に今あるのではないかという指摘と、森戸先生が30年前に町田市役所に在籍されていたときに言われていた「考えながら歩くまちづくり」、つまり頭でいろいろ考えるよりもまず歩いて、成功例を見せてしまうというやり方が、いまの町田での難しい局面を動かしていく、楽しく創造的なきっかけになるのではないかと  
いうまとめがありました。(井上弘貴 記)



## (株)三和・市民・市役所が初の「レジ袋ゼロ」を協働実験 2008.03.29

町田発・ゼロ・ウェイスト宣言の会事務局長 渋谷 謙三

### ■ たかが「レジ袋」、されど「レジ袋」

「たかがレジ袋、なぜ、こんなに大騒ぎになるのか?」。あの取材現場に偶然出逢った人は、きっとそう思い眉をひそめたに違いありません。また、「あんな便利なものを、どうして無くすのか!」、ひょっとすると、お店のレジのところでもう怒鳴る人が現れてテレビニュースの画面に登場するのではないかと私たちは少々心配したりもしました。

3月14日(金)、町田市の中心部からは離れた、多摩ニュータウン寄りのUR都市再生機構の小山田桜台団地の商店街にあるスーパー三和店前は、開店が午前10時というのに、6時半頃からNHK「おはよう日本」のテレビカメラが廻り始めました。『今朝の10時開



店を期して、ここスーパー三和・小山田店から、全国で初めてレジ袋が姿を消します』というニュースが店頭から生中継で全国に流されたのです。そして、開店時には民放各社が揃って買い物客やレジのカウンターでマイバッグに商品を詰めて帰るお客の姿を追いかけました。突然のマイクを向けられ、びっくりして買い物をしないで逃げるように帰ってしまった気の毒な市民の方も何人か見

早朝からスーパー三和・小山田店頭に詰めかけた報道陣 受けられました。

新聞社も多摩版欄を持つ各社とローカル社の記者さんたちも、詰めかけていました。特に翌朝の東京新聞には、1面の真ん中に囲み記事が載り、私たちがびっくりさせました。早速、町田通信部の記者、堂畑さんに電話を入れて模様をうかがいました。

『いや、実のところまさか1面で扱われるとはねえ、自分でもびっくりしてるんですよ』という弾んだ声が返ってきました。タイトルは「レジ袋やめます」、内容は「町田市を中心に51店舗を展開する中堅スーパー「三和」は、3月4日に市と市民団体「ゼロ・ウェイスト宣言の会(広瀬立成代表)との3者で協定を結び、14日から半年間上記店舗でレジ袋の廃止実験に取り組む。経済産業省は、行政と市民団体、スーパーが一体となってレジ袋ゼロを目指すのは全国で初めて注目している」というもので、(株)三和の小山克己社長と経済産業省のリサイクル推進課の安藤晴彦課長のお二人の流石と思える談話も載せてあり、レジ袋実験がどんな風に行われるのかがとても判りやすくまとめられていました。

小山社長は、「地元企業としての責任を果たしたい。皆さんにご理解いただき拡大したい」という要旨、安藤課長は、「リデュースのモデルケースになる。使い捨て社会からの決別の一步が根付くことを期待」という、レジ袋問題の本質を突いた言葉でした。

私たち三和側に要請書を出した仲間たちも、当日は朝から三和店頭に詰めかけました。テレビのインタビューに、1週間ほど前から無償提供された三和特製のグリーンのマイバッグを下げている小山田の市民の人たちを見ると少し安心して、「ありがとうございます」と声をかけ、私たちが夜なべで作った特製ラベル貼りの紙袋を使う市民を見つけて拍手をするなど、大変な盛り上がりを見せたひとときでした。

長い間、はかばかしく進展しないごみ減量問題と、忸怩たる想いで取り組んできた私たちは、ちょっと大袈裟に言えば、予想外の壮大なドラマの幕開けを期待する瞬間のような

気分を味あうことになりました。

いま、国内では、年間 305 億枚もレジ袋が造られていると言われます。重量にして約 30 万 5 千トンにもなるこのレジ袋たちは、最終的にはすべてごみになると推定されます。また、これだけのレジ袋の原料を原油に換算すると実に約 42 万キロリットル、超大型の石油タンカー2 隻分に相当する原油の浪費に当たると言われています。(経済産業省) まさに、「されどレジ袋」なのです。

## ■ 初の「レジ袋ゼロ実験・三者協働」は、どのようにして生まれたのか

まず、これまでに至る時系列的な経過をふり返ると以下のとおりです。

07. 11. 17(土) 市「ごみゼロ市民会議」提言書を提出。レジ袋削減策についても、市民、商店、市役所の三者協議の場の設置を提案。
08. 02. 07(木) 「町田発・ゼロ・ウェイト宣言の会」全体会。ごみゼロ市民会議を事実上継続する方策(市民組織、行政との協働、取り組みテーマ)を協議。(株)三和にレジ袋ゼロを要請する取り組みも提案され、会員有志で活動することを了承。
08. 02. 14(木) 有志交渉団 11 名、(株)三和の本社で要請書を提出。市ごみ減量課の鈴木課長も同行、三和・トップの小山常務と面談。「実験をやりましょう」との即答を得る。
08. 02. 16(土) 有志交渉団、今後の(株)三和への支援活動を協議。三者の関係者会議の開催を協議。
08. 02. 19(火) (株)三和との打ち合わせ会議。三和側からレジ袋方針メモの提示。
08. 02. 20(水) 市民有志、経済産業省、環境省へレジ袋ゼロ実験の協力要請に出向。協力承諾を得る。
08. 02. 21(木) 第 1 回レジ袋関係者会議。広瀬代表以下市民有志、三和・今井取締役、山之内店長、市側鈴木ごみ減量課長が参加。三和メモを中心に協議。
08. 02. 26(火) 第 2 回協議会。実験実施要綱案まとまる。実験開始日 3/14、実験店小山田店、協定書案。
08. 02. 27(水) 市長、三和社長、広瀬代表の 3 社協定締結日を 3/4 とする。共同記者会見を直前に行うと決定。同時刻に、経済産業省・記者クラブで同時発表すると決定(2/28)
08. 02. 29(金) 市庁内会議で、記者会見など内部打ち合わせ。市民紙袋用特製ラベル発注。
08. 03. 01(土) 第 3 回協議会。協定書案作成。記者会見用ブリーフ作成。周辺住民用チラシ作成。
08. 03. 04(火) 3 者協定書締結(13:00)。共同記者会見・経済産業省でも(13:30)。  
NHK 首都圏ニュース報道。
08. 03. 05(水) 予告チラシ店頭配布。三和特製マイバッグを千円以上の買い上げ客に無料サービス開始。  
市民案紙袋の配布方法の検討。
08. 03. 11(火) 「ゼロ・ウェイト」全体会議。協定書の締結。  
三和・小山田店支援方法検討。 中央・石阪市長、左・三和社長、右・広瀬代表ほかアンケート原案検討。
08. 03. 14(金) 小山田店実験開始。NHK 及び民放テレビ各社ニュース報道。石阪市長、三和小山社長、広瀬代表現地視察。経済産業省安藤課長、岡本広報係長現地視察。
08. 03. 19(水) 第 4 回協議会。1 週目の実施状況報告。今後の対策とアンケート調査方法の協議。(アンケート調査は、町田市が主体で、実験開始 1 ヶ月後を目途に実施する予定)



全国初の試みと騒がれた今回のレジ袋廃止の協働実験は、以上のように一見何の問題もなくスムーズに生まれてきたように整理することが出来ますが、この3者間の協定が締結されるまでには、それぞれの場面で、さまざまなキーマンが重要な役割を演じてくれたエピソードがあり、それが支えになって成功への道を辿ったことが推測されます。折角の機会に、その中で、私なりに関わり得たいいくつかの裏話をご紹介しますおきましょう。

(株)三和に初めて要請に行く際には、私たちは当然社長にお会いする考えでいました。でも、最高責任者に一発交渉で断られたらそれで終わりだぞ、とある人から忠告を受け、以前から最も親しい副社長格の小山専務にアポイントを取り、それが幸い実現しました。

そして、結果は、全く予想外の嬉しい驚きでした。小山専務から発せられた回答は、「検討しましょう」ではなく、13人の交渉団の誰も予測していなかった即決の「やりましょう」の言葉でした。その瞬間は仲間内で歓声とため息が同時に出たほどです。帰路、みんな喜びを確かめ合い、今後の手順を相談して別れた後、私は急に不安に襲われました。代表取締役である専務が約束したことだから、大丈夫とは思いますが、大きな会社だからさまざまな意見もある筈だ。社内で万一異論が出たときに、結論はどうなるだろうか。内部のことはよくは判らないが、これはひとつ外部からも強力な声援や世論を早期につくることが肝要で、実験も絶対に成功させなくてはならないと思いつめ始めました。

その日のうちに、私は初めて石阪市長に直接電話を入れました。三和での交渉団の要請、それに対する小山専務の勇断で、レジ袋廃止実験が可能になったことの報告、この決定を不動のものにする外部からの強い応援が必要と手短かに話しました。電話を切ってから10分後ぐらい経って、今度は小山専務から私に電話が入りました。専務は少々興奮した様子で「渋谷さん、たったいま、市長さんから直接電話を頂いた。やあ、喜んでいただいたようで大変嬉しい。頑張って成功させましょう」といった内容でした。私がすぐに市長に報告したのは言うまでもありません。

もうお一人、昨年、都内のひよんな場所で昵懇になった経済産業省リサイクル推進課長の安藤晴彦氏からは、今回は大変なバックアップをしていただきました。

私は、レジ袋廃止の成否は、世論作りが出来るかどうかだと、早くから考えていました。そのためには、報道各社の評価が分かれてはだめで、全国で初の価値ある試みであるという格付けが欲しいと思いました。(株)三和との交渉前から安藤課長にそのことを相談すると、それは素晴らしい計画だが、なかなか簡単ではなかろう。場合によっては交渉の場に出ても良い、ただし邪魔にならない程度で応援したいと励ましてくれていました。

交渉は嬉しい見込み違いとなり、課題は世論作りに移りました。町田で考えている実験は、「全国で初の試みが売り」、でも、ひとり町田市がいくら力説しても、データを持って説得できないのが弱みです。しかし、しばらくして、レジ袋の全国の状況を最も正確に把握しているのは、何とリサイクル推進課そのものということが判りました。

安藤課長は、そのとき既に岡本さんという広報係長に命じて、レジ袋廃止の運動が、単に行政だけの活動だけでなく、企業と市民団体がイニシアチブをとって役所も巻き込んだ協働の運動として成功した初のケースとして、際立った町田市のための報道向けの資料を作ってくれていました。その上に、3月4日に行った町田市での共同記者会見と同時刻に霞ヶ関の経済産業省記者クラブで同時発表という異例の措置を手配してくれました。その日の夜、NHKの首都圏ニュースに早々と町田のレジ袋が報道され、民放各社が続いて取材に入りました。その威力の大きさに私たちはただもうびっくりするばかりでした。

(以下 次号に続く)

## 事務局だより

○ 次回定例会のおしらせ

5月の定例会は5月7日(水曜日)です。

中央公民館 学習室(3) 18:00～

### まちださくらまつりが盛況です

毎年恒例のまちだの「さくらまつり」。今年度は市制50周年の記念したイベントとして、3月29日～30日に芹ヶ谷公園さくら祭りが、4月5日～6日に尾根緑道さくら祭りがおこなわれます。下の画像は先日の芹ヶ谷公園さくら祭りの様子です。見事な桜並木の下、たくさんの団体が出店し、特設ステージでは実行委員会の企画するさまざまなパフォーマンスもおこなわれました。

尾根緑道さくら祭りでは、町田発・ゼロ・ウェイスト宣言の会の有志が中心となって「エコステーション」が設置されます。これは、紙コップや割り箸などをその場で簡単に水洗いし、そのままではごみになってしまうものをすこしでも市民の手で資源にしていく実験的試みのひとつです。



### まちづくりの環

町田まちづくり市民議会会報

2008年3月31日第56号発行

発行者 佐藤東洋士

編集責任者 井上弘貴

事務局 常盤町桜美林大学内

TEL 042-797-6947

## 編集後記

今年もまた、早いもので年度末・新年度の季節になりました。たくさんのひとたちが慣れ親しんだ場所を離れ、新しい場所で新しい生活を始めることでしょう。これまでの場所で手に入れた経験やひととのつながりを大切にしながら、新天地でも熱い思いを育てていきたいものです。町田市でも今月は職員の異動の時期です。「市民すべてが希望の持てるまち」をころから目指して、職員のみなさんがそれぞれの新しい職場で力と情熱を存分に発揮してくださることを願ってやみません。



今号の記事にありますように、3月16日の日曜日、当市民会議の定期総会と記念討論会を無事におこなうことができました。討論会の後、近くの刺身居酒屋に場所を移しておこなった懇親会も、たいへん楽しくみんなで盛り上がることができました。年度末の休日にもかかわらずご参加いただきましたみなさま、そして問題提起をしてくださった方々と講師の森戸先生に、この場を借りてあらためて感謝を申し上げます。



紙面の都合により、それぞれの方の問題提起については簡単な要旨しかご紹介できませんでしたし、フロアからのご発言についてもその内容と熱気を充分にお伝えすることができませんでした。各々の問題提起やご発言の詳細につきましては、原稿のかたちにあらためてまとめていただくと、本紙上に順次掲載をさせていただきます。どうぞご期待ください(H.I.)。